

収量性、製茶品質に優れる緑茶用品種「はるのなごり」と「みやまかおり」			
[要約] 「はるのなごり」及び「みやまかおり」は、一番茶の全窒素・遊離アミノ酸含有率が高く、優れた製茶品質を有す晩生品種である。また、耐寒性があり多収で、「やぶきた」との作期分散品種として有望である。			
農業総合センター山間地帯特産指導所	令和2年度	成果区分	技術情報

1. 背景・ねらい

本県のチャ栽培品種のうち約 72%が「やぶきた」であり(令和元年、在来品種を除く)、品種構成が「やぶきた」に偏重することで、産地では病虫害の多発、香味の画一化等の弊害が生じている。そこで、耐寒性・収量性が高く、優れた製茶品質を有する本県茶産地に適した晩生品種を選定する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 「はるのなごり」と「みやまかおり」(以下、両品種)は「やぶきた」より萌芽期や摘採日の遅い晩生品種である(表1)。
- 2) 両品種は「やぶきた」と比べ樹勢が強く炭疽病の発生も少ない。また、同等以上の耐寒性を有している(表1)。
- 3) 両品種の一番茶収量は、「やぶきた」より約2割多い(表1)。
- 4) 両品種の官能審査による一番茶荒茶品質の評価は「やぶきた」より総合的に優れる(表2)。
- 5) 両品種の一番茶荒茶全窒素・遊離アミノ酸含有率は「やぶきた」より高く、タンニン含有率は低い傾向がみられる(表3)。
- 6) 生産者の官能評価では、「はるのなごり」が総合評価や外観、香気で、「みやまかおり」が滋味や水色で優れており、両品種とも「やぶきた」より高い評価を得ている(図1)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 「はるのなごり」は宮崎県総合農業試験場茶業支場において「埼玉1号」を母親、「宮崎8号」を父親として交配・選抜された品種であり、平成24年に品種登録(登録番号:第22068号)が行われている。
- 2) 「みやまかおり」は宮崎県総合農業試験場茶業支場において「京研283」を母親、「埼玉1号」を父親として交配・選抜された品種であり、平成18年に品種登録(登録番号:第13754号)が行われている。
- 3) 本成果は久慈郡大子町の山間地帯特産指導所ほ場(春整枝園)において調査した結果である。
- 4) 耐寒性があり県下全域に適用できる。
- 5) 活着率と初期生育の向上を図るため、定植前の土壌改良や幼木期の肥培管理を徹底する。
- 6) 苗木は許諾契約を結んだ団体から入手可能である。

4. 具体的データ

表1 生育特性

供試品種	萌芽期	摘採日	樹高	株張り	寒害 (赤枯れ)	炭疽病	一番茶生葉 収量	
	(月 日)	(月 日)	(cm)	(cm)	発生程度	発生程度	(kg/10a)	(指数)
はるのなごり	4.24	5.25	93	118	2.4	1.1	140	(124)
みやまかおり	4.26	5.26	101	119	2.1	1.3	137	(121)
やぶきた	4.20	5.23	77	94	2.8	1.8	113	(100)

注) H28～R2 の平均値 寒害発生程度・炭疽病発生程度: 1(無)→5(多)
 指数は「やぶきた」を 100 とした値
 栽植密度等: うね間 180 cm×株間 30 cm(一条植え・H19 定植)、春整枝を 3 月下旬に実施

表2 官能評価による一番茶荒茶品質

供試品種	形状	色沢	香気	水色	滋味	内質計	合計値	(指数)
はるのなごり	7.8	9.2	8.8	7.8	9.0	25.6	42.6	(114)
みやまかおり	8.2	9.4	7.8	8.6	9.2	25.6	43.2	(116)
やぶきた	5.8	6.6	8.6	7.6	8.8	25.0	37.4	(100)

注) H28～R2 の平均値 品質は官能審査により各項目 10 段階で評価(合計 50 点)
 内質計=香気+水色+滋味 指数は「やぶきた」を 100 とした値

表3 一番茶荒茶成分含有率

供試品種	荒茶成分(%)				
	全窒素量	遊離アミノ酸	繊維量	タンニン	カフェイン
はるのなごり	6.0	4.0	17.7	12.8	3.0
みやまかおり	6.1	4.0	17.0	12.7	3.0
やぶきた	5.1	2.9	20.1	16.2	2.6

注) H28～R2 の平均値 近赤外光分析法により評価 成分は乾物当たり%で表示

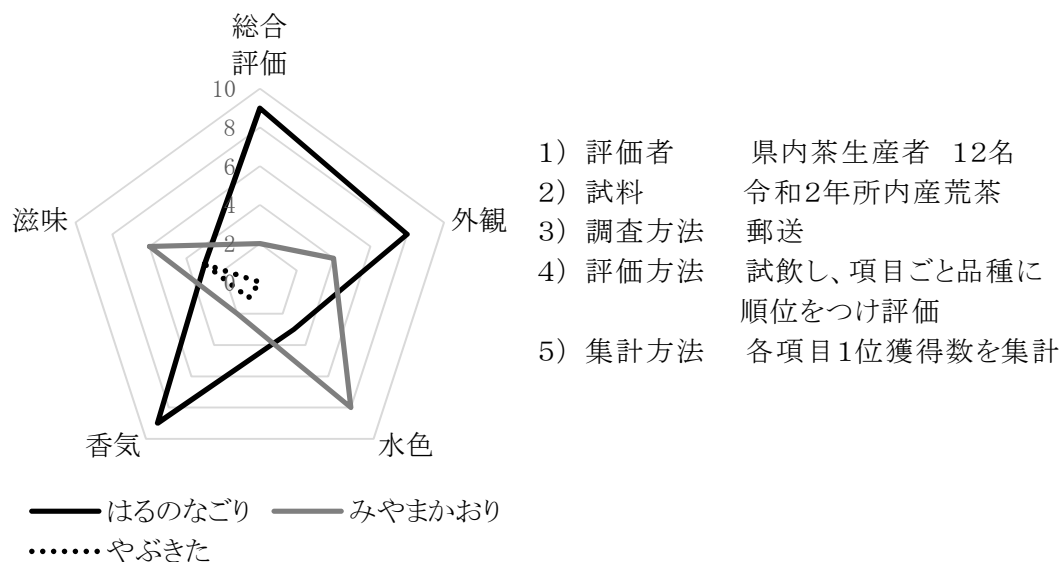


図1 「はるのなごり」及び「みやまかおり」に関する生産者アンケート結果 (R2)

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

本県茶産地に適する品種の選定 平成 28～令和2年度 山間地帯特産指導所